

2024年6月活動報告 さつまの苗植えだヨ！全員集合

6月23日、公文名の畑でサツマイモのつるさしをしました。集まったのは13人、朝から雨がぱらついていましたが、みんなで何とか植えることができました。土に水分が多い方がつるが活着しやすいと聞いたので、カンカン照りよりは良かったかな？

今回植えたのは安納芋、ミツイモ、紫イモ、紅はるかの4種類。贅沢～！茎や葉の色も品種によって違うんですね～。大きく育つと畑がカラフル、にぎやかになりそうですね。

7月上旬で右下写真のように育ってきています。この先草取りなど、おいしい芋が育つようにみんなで手を掛けていきましょう！鹿に葉っぱを食べられないように注意も必要です！

収穫は晩秋になりそうです、楽しみです～！芋ほりは11月9日、焼き芋は収穫祭開催日の11月23日を予定していますので、そちらへのご参加もぜひ！



たんぼで育つもの

先月の通信でドジョウの話をしました、ほかにも多くの生き物が田んぼで生活しています。

先日早朝、田んぼの中でじゃぶじゃぶと草取りをしていたら、羽化したてのトンボを発見しました。この時のトンボはアキアカネのようです。前年の秋に産卵された卵は田んぼの土の中で冬を越し、翌年の春に孵化、田んぼで育って初夏に成虫になります。昨年は田んぼでヤゴを見かけなかったのに今年はよく見るな～と思っていたのですが、なるほど。今借りている田んぼは数年作付けを休んでいたもので、久々に田んぼにした昨年は孵る卵が無かったのでしょうか。

ギンヤンマのヤゴもありました。脱皮したばかりのようで、緑色がきれいです。こちらもやはり昨年から越冬した個体でしょう。そう考えると、田んぼを続けるうちにどんどんトンボやヤゴが増えていきそうです。

ヤゴだけでなく、タニシの数も増えたような気がしています。ドジョウも昨年はこんなに多くありませんでした。田んぼを田んぼとして維持することが、結果的に生物多様性の維持につながるんですね。

そう考えたとき、私たちが耕している約1,000㎡の田んぼだけでなく、周りに多くある休耕田を田んぼに、そこまで手が回らなくても水を入れて湿地のように維持することだけでも、かなり多くの生き物の生活の場を用意ができそうです。

また、休耕田にセイタカアワダチソウなどの草が繁茂するとそこが野生動物のすみかになるなど、他の困りごとの原因にもなっています。

とは言え里山の恵みを楽しく活用するのが基本スタンス、無理なく楽しい活動の結果自然が守られていたらそれが一番理想ですね。



2024年7月活動予定 藍のたたき染め体験！

昨年大好評だった「藍のたたき染め」、今年もやりますよ～！

藍は古くから使われてきた染料のひとつで「青は藍より出でて～」のことわざでもおなじみですね。いわゆる「藍染め」をするには、藍の葉を発酵させたりとかなりの手間がかかるようですが（建て染め、というそうです）、めちゃくちゃ簡単にできるのが「たたき染め」です。

やり方は簡単、布（木綿）の上に藍の葉を並べ、上からトントンたたくだけ。葉っぱからしみ出した色素が布にうつり、葉っぱの形に染まります。たたいた直後は緑色ですが、時間の経過とともに青くなっていきます。洗濯を重ねても色合いが変化して楽しいですよ。

無地のトートバッグを用意するので、手ぶらでOKです。葉っぱの並べ方次第で色んなデザインができちゃいます。世界に一つだけのオリジナルバッグを作りましょう！

葉っぱはいっぱいあるので、他にもたたき染めをしたい布があればご持参ください。型枠を用意すれば文字や図形を染め抜くことも可能ですよ！

日 時：7月20日（土）10時～12時

会 場：公文名ファイブ畑

持ち物：飲み物、帽子、タオル、たたき染めをしたい布（あれば）

参加費：1人500円（体験料、保険代）



田んぼの状況をお知らせします

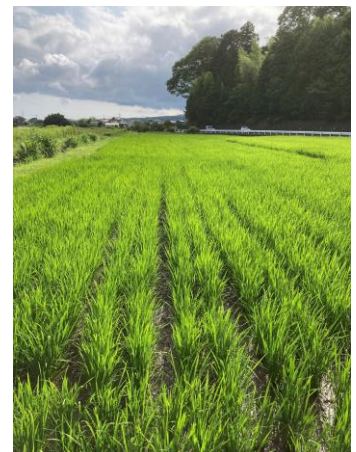
5月18日の田植え後、稲は順調に育っています。今年導入したチェーン除草の甲斐あってか、昨年より雑草は少ない印象です。まあこれも、回数を重ねるごとに変化するのもかもしれません。7月上旬からは中干しといって一時的に田んぼから水を抜く作業をしています。土の中の酸素が増えたり有害なガスが抜けたり稲の根が強くなったりと、様々な意味があるそうですが、すべてのオタマジャクシをカエルに出来ないのが残念。稲刈り時の作業性向上も見込めるそうなので（ずっとドロドロだと稲刈りの機械を入れるのも大変です）やむを得ないかなと思っていますが、何かうまい方法がないのでしょうか。

さて、この先の稲作ですが、7月下旬には中干しを終了し再度水を入れ、穂が出る手前の8月上旬に肥料を与えます（穂肥＝ほごえ、というそうです）。8月中下旬には穂が出始め、稲刈りは10月5日を予定しています。上手く育ってくれることを祈るばかり。

今まで購入していた「主食」を育てるというのは何とも面白いものです。行き過ぎた貨幣経済からちょっと抜け出すような精神的な楽しみもあり。耕作放棄地解消のためにも、一緒に耕してくれる仲間を募集中です！



5月30日



7月14日